

北海道留寿都農業高等学校の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和5年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1) アグリマイスター顕彰制度を推奨し、農業教育の質を向上させます。	(1) 農業クラブ各行事で、生徒の自主的活動を促し、全国大会にて1名の生徒が入賞することができた。	日本農業技術検定の3級取得率は50%程度であり、目標である80%以上を達成することができなかった。次年度はICT端末を活用しながら、各種活動・資格の指導を強化していく。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1) 教科指導の充実を図り、国際教育の推進を図ります。	(1) 教科間での連携を意識しながら実施することができた。	学校設定科目「国際農業」にて国際教育に一層注力していく。	4
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1) GAPの基準に基づいた農場経営を実施し、持続可能な農業の推進を図ります。 (2) 農家委託実習を通して、産業人の育成を目指します。	(1) 生徒が主体となり、JGAP認証を維持することができた。 (2) 委託実習を通して、地域産業への学びを深めることができた。	次年度以降も引き続き実施していく。	5
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1) プロジェクト学習にて地域の課題や、新たな魅力発信に向けた取り組みを推進します。 (2) 地域の農業と連携し、6次産業を学ぶ機会を創出します。	(1) 近隣の教育機関等と連携し、課題解決に向けて取り組ませることができた。 (2) 科目「食品製造」にて地域農業の6次産業化事例についての学習をおこなった。	今後も地域の各機関との連携、地域農業に関する学習活動を実施していく。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1) SDGsの達成に寄与するため、GAPの基準に基づいた農場づくりを実践します。	(1) 輪作体系に基づいた作付、総合的防除を心がけ、環境負荷の軽減に考慮した農場管理を実施できた。	課題研究のプロジェクト等にて、SDGsの達成に寄与した研究に取り組んでいく。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1) 村のすべての教育機関と、農業を中心とした教育連携を実践します。	(1) 保育所・小中学校との作物栽培体験、花壇造成、プロジェクト学習などで交流を深めることができた。	次年度以降も引き続き実施していくとともに、新たな交流機会を検討していく。	5
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1) ICTを用いた授業を学校設定科目「国際農業」を中心に実践し、スマート農業に関する学習の充実・発展を図ります。	(1) 1人1台端末を活用しながら科目「国際農業」を中心にスマート農業に関する学習を深めることができた。	関連企業等との連携を深め、ICTに関する視察・体験の場を設定する。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1) 学校全体にて安全教育を徹底し、防災意識を高める教育を展開します。	(1) 避難訓練や防災に関する講習会を実施し、生徒に高い防災意識を身に付けさせることができた。	次年度以降も引き続き実施していく。	5